自己評価シート【向原住区センター児童館】

1、福祉サービスの基本方針と組織

1-1 理念・基本方針

1-1-1 (1) 理念、基本方針が明文化（児童館内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等））され周知が図られている。	
【判断基準】 (a) 児童館の理念、基本方針が適切に明文化されており、職員、利用者等への周知が図られている。 (b) 児童館の理念、基本方針が明文化されているが、内容や周知が十分ではない。 (c) 児童館の理念、基本方針の明文化や職員、利用者等への周知がされていない。	
【自己評価】	実践例（取組や記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	児童館の理念は、今年度の地域懇談会開催の際に、地域の方々に伝わりやすくするために資料にコンパクトにまとめ、周知した。日常的には学校あいさつの際や向原住区住民会議常任委員会の中で児童館（併設学童保育クラブも含む）の子どもたちの様子や活動の様子を丁寧に伝えている。初めての来館者には特に、可能な限り複数の職員での対応を心がけ、児童館活動のお知らせやパンフレットなどを見せながら、児童館全般について伝えている。
1-1-2 (2) 理念、基本方針の確立・周知について	
良いと思う点	改善が必要だと思う点
来館する子どもたち・保護者・地域の方に対して、丁寧に児童館の理念や基本方針を伝えることが出来ている。特に民生児童委員や主任児童委員の方には、児童館活動に折にふれて参加していただき、理解を深めてもらっている。 毎月の児童館のお知らせの裏面では、子どもたちの発言も交えた様子を記載するように努めており、子どもたちが生き生きと過ごしている様子が伝わるようにしている。	児童館のご案内の中には、児童館の理念や基本方針に関する文章をわかりやすい表現で載せているが、保護者向けの文章記載の検討も行う。

2、児童館の活動に関する事項

2-1 児童館の理念・目的及び施設特性

2-1-1 (1) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいる。	
【判断基準】 (a) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理	

<p>念や基本方針等に盛り込んでいる。</p> <p>(b) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいるが、十分ではない。</p> <p>(c) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいない。</p>	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	<p>児童館ガイドラインや目黒区児童館運営指針の理念や目的について確認をし、児童館年間事業方針を定めている。</p> <p>その年度の子どもたちの現状に即した内容になるよう、意識をしている。</p>
<p>2-1-(2)</p> <p>児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の施設特性を發揮している。</p>	
<p>【判断基準】</p> <p>(a) 児童館の施設特性を發揮している。</p> <p>(b) 児童館の施設特性を發揮しているが、十分ではない。</p> <p>(c) 児童館の施設特性を發揮していない。</p>	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	<p>利用者が安心・安全に楽しく過ごし、困った時に頼りになり、信頼できる職員になるよう心がけている。来館する子どもたちや乳幼児保護者の悩みにも、寄り添いながら日々対応している。</p> <p>行事の中で、子どもたちのやりたい気持ちを聞き、実現し活躍できる機会を設けている。</p> <p>民生児童委員と主任児童委員は、行事活動以外にも乳幼児クラブに毎回交代で来館し、積極的に活動に関わって下さっており、乳幼児保護者の方との交流の機会になっている。</p> <p>平和祈念のつどいや乳幼児活動の中で、地域の読み聞かせボランティアグループの方に読み聞かせをお願いしている。</p>
<p>2-1-(3)</p> <p>子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。</p>	
<p>【判断基準】</p> <p>(a) 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。</p> <p>(b) -</p> <p>(c) 子どもの権利擁護に関する取組が十分ではない。</p>	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）

☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	<p>日々子どもたちの関わりの中で、子どもの話の内容や家庭環境の変化などで少しでも職員が気になった場合には、職員間で情報共有し、必要な機関に連携を取るようになっている。</p> <p>乳幼児親子や小学生なども多国籍の利用があるが、職員はもちろん子どもたちも差別的な扱いをせず、一緒に遊び、援助する場面がある。</p> <p>子ども同士のトラブルの場合は、双方の話聞き、丁寧に話し合いを行うようになっている。</p>
--	---

<p>2-1-(4) 児童館の理念・目的及び施設特性について</p>	
<p>良いと思う点</p>	<p>改善が必要だと思う点</p>
<p>子ども・保護者・乳幼児親子等来館者の思いを職員一人ひとりが丁寧に受けとめて対応をしている。</p> <p>地域の方とは、日常的に関わりを密に持っており、信頼関係を大切にしている。</p> <p>子どもたちの仲間づくりを大切にしながら、子どもの意見を反映できる場を設けている。</p>	<p>プレイルーム床のささくれについては、工事の要望を出し、対応の工夫を行っているが、子どもたちに施設の特性を生かした遊びを十分には行うことができていないところはある。今後も引き続き工夫していきたいと考えている。</p>

2-2 遊びによる子どもの育成

<p>2-2-(1) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っている。</p>	
<p>【判断基準】</p> <p>(a) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っている。</p> <p>(b) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っているが、十分ではない。</p> <p>(c) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解していない。</p>	
<p>【自己評価】</p>	<p>実践例（取り組みや記録等）</p>
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	<p>日々の朝会や昼会において、子どもたちの遊びや言動、気になる子どもの姿について職員間で共有している。共有することで統一した関わりをしていき、子どもの成長につなげている。一人ひとりに合わせた遊びの展開ができるように工夫している。</p>
<p>2-2-(2) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしている。</p>	
<p>【判断基準】</p> <p>(a) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしている。</p>	

- (b) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしているが、十分ではない。
- (c) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしていない。

【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	今年度も向原ふれあいまつりで子どもスタッフを募集し、子どもたちの希望をそれぞれ叶えることができた。例えば、おばけ屋敷でこんなおばけになりたい、ダンスをしたい、景品はおりがみを折ってあげたいなど、子どもたちの思いをそれぞれ汲み取り、実現できたと思う。 図工室では、自由に使える材料を十分に揃え、子どもたちが自由に工作意欲を満たすことができるよう、職員として働きかけを行っている。

2-2-(3)

子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助している。

【判断基準】

- (a) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助している。
- (b) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助しているが、十分ではない。
- (c) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるような援助を行っていない。

【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	プレイルームでは子ども同士の誘い合いができるように、様々な遊びの中で関係が築けるように援助している。 中高生対応については、中高生タイムを実施する度に中学生と職員との関係が深まってきている。中学生の好きな遊びが十分できる環境を整え、好きな遊びをティーンズフェスタのイベントにつなげられ、中学生の遊びや活動の視野が広がってきた。中高生タイム以外の時間も来館するようになり、他校同士でも一緒にプレーをして楽しむなど、中学生にとって児童館が居場所になってきている。

2-2-(4)

遊びによる子どもの育成について

良いと思う点	改善が必要だと思う点
色々な遊びや行事の中で、子どもの希望に寄り添い、その思いを実現することができたと思う。また、子どもたちの思いつきをそのまま企画や継続した遊びにつなぐことが出来ていると思う。 異年齢の子どもたちが関わりを持ち、お互いに理解できるような対応を心がけている。	異年齢の子どもたちが関わりを持ち、それぞれがやりたいこと、実現したいことを聞き、取り組めるように援助していく。そのためには職員一人ひとりが学び、自身のスキルを向上させていくことが必要と考える。職員自身があそびの引き出しを増やしていくことで、子どもに合った対応ができるようにしていく。

2-3 児童館の安全管理

2-3-(1)	
緊急時（事故、感染症の発生時など）の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。	
【判断基準】	
(a) 利用者の安全確保のために、体制が整備され機能している。	
(b) 利用者の安全確保のために、体制が整備されているが、十分に機能していない。	
(c) 利用者の安全確保のために、体制が整備されていない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	災害時初期対応マニュアルに基づき、月に一回避難訓練を実施している。地震・火災・不審者・水害と様々な状況を想定して実施している。訓練実施後は、職員間で振り返りを行い、いざという時に迅速に対応できるよう努めている。今年度も警察署の方に協力していただき、不審者訓練を行った。ヒヤリハット事例の共有や事故後の再発防止策の徹底をしている。
2-3-(2)	
利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	
【判断基準】	
(a) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集し、要員分析と対応策の検討を行い実行している。	
(b) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集しているが、要員分析と対応策の検討が十分でない。	
(c) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集していない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	毎月施設点検を行い、職員間で共有している。破損箇所については、その都度職員間で共有し、南部地区サービス事務所へ報告、修繕の要望を出している。また、施設設備や遊具に不具合があった場合は、職員間で共有し、使用をやめたり新しいものに替えたりするなど対応をしている。 以前は階段の手すりを滑り降りる姿があったが、花や子どもたちの作品を飾るようにしたことで改善されてきている。 来館した子どもが帰宅する際に心配があるような時は、子どもの話をよく聞き、必要に応じて保護者と連絡を取るなどした上で、安全に帰宅できるようにしている。